

Anniversary
AOI
15th

AOI通信

静岡音楽館倶楽部情報誌
SEPTEMBER 2010 No.59

秋号

対談
高橋アキ×野平一郎

驚異! 5台のピアノの競演

メイキング
カルメン

舞台裏お見せします!

コンサートレポート

調律師とピアノ

出演者から出演者へ
.....手紙リレー

AOIゆかりのアーティスト
生駒宗明さん(チェロ)



高橋アキ

野平一郎

開館15周年を迎えた静岡音楽館AOI。

クラシック、現代音楽、

伝統芸能などさまざまな分野の

プロフェッショナルが企画会議委員を務め、

AOIならではの

画期的なプログラムを発信し続けている。

中でも高橋アキさんは、ピアニストとして、

またプロデューサーとして、

世界一流の現代音楽家たちを紹介し、

国境や時代を超越した音楽表現の多様性を

私たちに広く知らしめてくれました。

来る10月14日に開催される高橋さんの新企画

《驚異! 5台のピアノの競演》の間さどころと、

AOIでの15年間を、

野平一郎芸術監督とともに語っていただきました。



【野平】高橋アキさんにはAOIの企画会議委員として、この15年間、存分にそのお力を発揮していただきました。私にとってアキさんは「自分たち世代の音楽観を創造してくれた存在」のひとりで、若者に現代音楽の面白さをトコトン教えてくれた憧憬の存在です。そういう先輩と一緒に仕事が出来て、本当に得難い経験をさせてもらっています。とくに企画力のない自分に、「演奏会を企画するというのはこういうことだ」と身をもって示してくださったことに感謝しています。

【高橋】いえいえ、もともと企画するのが好きでしたから。

【野平】演奏会の企画というのは、企画者自身にやりたいことが明確にあって、その人自身の日頃の音楽活動から培われたもののがにじみ出てくるもので、単に楽曲を並べるものではないと教えていただきました。今回の「5台のピアノの競演」も、まさにピアニスト高橋アキの国境を越えた活動領域が実現させたものですね。

【高橋】《5台のピアノのための音楽》を書いたホセ・マセダ（フィリピン）は、AOI開館初年度に静岡児童合唱団の子どもたちと共演したので、ご記憶の方もいらっしゃると思います。彼とは昔から顔見知りでしたが、1992年頃、武満徹さんの音楽祭で会ったとき、アジアの民族音楽を専門にしていた彼に「ピアノ曲はあるの?」と聞いたところ、「あんな時代遅れの楽器に作曲するわけがない」と言う言葉に、私もムキになって「ピアノという楽器には可能性が残っているのよ!」と反論すると、彼はなんと「1台のピアノには作曲しないけど、5台のピアノのためなら書くよ!」。今度はこちらがびくりましたが、実現したら今までにない素晴らしい音楽が誕生するような気がして、何ヶ月間もディスカッションを重ねました。彼は演奏家とマンツーマンでパート練習をする人ですが、それは自分にとってとても得難い経験でした。（*）

*ホセ・マセダへの手紙が高橋アキさんのHP（Aki's noteのコーナー）に掲載されています。

高橋アキ（ピアノ） Aki TAKAHASHI (Pf.)
鎌倉生まれ。東京芸大卒業、同大学院修了。在学中の1968年、日独現代音楽祭へのデビューは新鮮な衝撃をもって迎えられた。83年、第1回中島健蔵音楽賞を受賞。2003年、第21回中島健蔵音楽賞を受賞。CD「シューベルト・ピアノ・ソナタ集」（カメラータ・トウキョウ）と静岡音楽館AOIでの「モートン・フェルドマン：TRIO」コンサートの演奏により、平成19年度（第58回）芸術選奨文部科学大臣賞を、また、CD「危険な夜 高橋アキ・ブレイス・ジョン・ケージ」（カメラータ・トウキョウ）により平成20年度文化庁芸術祭優秀賞を受賞。静岡音楽館AOI企画会議委員。http://members.jcom.home.ne.jp/akitakahashi/

【野平】今回のプログラムの一つ〈4台のピアノのための作品〉を作曲したモートン・フェルドマン（アメリカ）とも深いかわりをお持ちですね。私は以前から、フェルドマンなら高橋アキ! ぜひともアキさんにAOIでフェルドマンの作品を演奏してほしい、と強く思っていたんです。

【高橋】私も企画書を出した時、野平さんの構想にフェルドマンの名前があったので嬉しかったですよ。彼が本格的に2〜6時間ぐらいの曲を書き始めた頃、直接呼ばれてアメリカへ行きました。すごく手の大きな人で、私が弾きづらそうにしているのを見て、これからは全部アキの手のために書くよ、と言ってくれました。そのお陰で誰にでも弾きやすくなったんじゃないかしら（笑）。AOIでは2007年に彼の〈TRIO〉という作品を、海外からチェロとヴァイオリン奏者を呼んでやらせていただきましたね。

【野平】そう、その演奏会によって、アキさんは芸術選奨を受賞されましたね。AOIとしても大変光栄なことです。今回はさらに、ピーター・ガーランド（アメリカ）に新作〈魔よけ〉をAOI委嘱作品として書きおろしてもらい、世界初演することになりましたが、彼はどんな作曲家ですか?

驚異! 5台の ピアノの 競演

10/14 木

19:00 開演 (18:30 開場)
静岡音楽館AOI ホール (8F)
全指定 ¥4,800 静岡音楽館倶楽部会員 ¥4,320 22歳以下 ¥1,000

高橋悠治 (ピアノ、指揮)

高橋アキ、野平一郎、藤井一興、寺嶋陸也、長尾洋史 (ピアノ)

ダリウス・ミヨー: パリ

モートン・フェルドマン: 4台のピアノのための作品

ピーター・ガーランド: 〈魔よけ〉(ロベルト・ボラーニョに倣って)

ホセ・マセダ: 5台のピアノのための音楽

多彩な音色で人々を魅了してやまないピアノ。今回お届けするコンサートはなんとそのピアノが5台! それぞれのコンサートに挑むのは6人の強豪。考えただけでドキドキわくわくしませんか? 想像するだけでもったいない! AOI史上初の5台ピアノによる迫力と感動のステージをぜひ体感してください!



メイキング カルメン

AOIの
舞台裏

8/9mon
コンサート前日
リハーサル
レポート

本番同様に行われたカルメン公演前日のリハーサル取材！
オペラ公演という目標に向かって、きびきび働くプロの仕事ぶり、
出演者の真剣な眼差し。
外の暑さにも負けない熱い一日でした。

カルメンの熱い、一日。

カルメン／林美智子(メソソプラノ)
ドン・ホセ／経種廉彦(テノール)
ミカエラ／安藤赴美子(ソプラノ)
エスカミーリョ／黒田博(バリトン)
フラスキータ／菊池美奈(ソプラノ)
メルセデス／田村由貴絵(メソソプラノ)
レメンダード／吉田伸昭(テノール)
ダンカイロ／池田直樹(バス/バリトン)
河原忠之(ピアノ)

構成・演出：池田直樹



家具搬入、照明シュート・・・
黙々と舞台を作り上げていく
照明・舞台スタッフ。
光を駆使し、登場人物の感情を
表現していく。ちなみに裏方スタッフさんも
オペラの進行、音楽まで把握しています。



化粧前の柔和で優しい雰囲気から一変！そこにいるのは林美智子さん演じる、悪女カルメン!!



ピアノの河原忠之氏も熱が入る。



幕間の早替も楽しみ♡



ミカエラ役の安藤赴美子さん。



ドン・ホセになげる花を
髪に飾るカルメン。



この時から悲劇は始まった！
護送するカルメンは
ドン・ホセを誘惑する。



闘牛士エスカミーリョ(黒田博)等の
豪華な衣裳に釘付け! ずらりと並んだ
スペイン風な時代的デザインの魅力たっぷり!

池田直樹氏による
構成・演出の今回のカルメンは、
アンティークの家具と
椅子がポイント。
ジプシーの溜り場である
裏町の酒場などの複雑な
雰囲気を演出していく。



カルメンのジプシー仲間、フラスキータ、
メルセデスのアンティークなアクセサリー。
間違えないように名前入りで。



ウエーブのかかった黒髪にスペイン風ジプシーの
魅力たっぷり! (メイク中、失礼しました)



衣裳など布製品のミシン掛け等も
スタッフの仕事。
アクシデントに備えて、舞台袖に
必ずスタンバイしているそう。



圧倒する種類の
化粧道具。
メイクさんは
手際よく
それぞれの役の
個性を
表現していく。



酒場で盛り上がる女達。
ジプシー仲間である
フラスキータ(菊池美奈)、
メルセデス(田村由貴絵)とのシーン。



8/10(火) オペラ・コンサート「カルメン」開演!
当日は、ほぼ満席の熱気にあふれる公演でした。



男と女の悲劇!
カルメンの死で幕をとじます。

おつかれさまでした! 皆さん素敵でした!



学芸員雑誌
記

静岡音楽館AOI学芸員
小林 旬

印象派の音楽と絵画、 とくにドビュッシーの場合。

印象派は、それまでとは違う方法で光を描き(彼らはとくに野外の光を重視した)、絵画に革新をもたらした。描く対象が、ある大聖堂だとして。石でできたその堅牢な建築は、ずっと不変な存在だといえるだろうか。人間の知覚においては、すべての物体は網膜上の光の結像にすぎない。光が変われば、そのすがたは変わる。C.モネ(1840-1926)はルーアン大聖堂を、時刻や天候などの光のヴァリエーションによって、およそ30点も描いた。

たとえば光、水、風……。そんな、かたちのないものを好んで表現したC.ドビュッシー(1862-1918)の音楽は、「印象派の音楽」といわれる。よく知られたピアノ曲(月の光)(1890/1905)、交響詩《海》(1903-05)をはじめとする多くがそうした作品である。なぜドビュッシーはそんなモチーフを扱ったのか。たぶんそれは、音楽がそういうものだからだ。かたなく、過ぎてゆく。あとにはなにも残らない。印象派の画家たちが、絵具をパレットで混ぜるのではなく(絵具は混ぜるほど暗い色になる)、細かい筆致でキャンバスに色を塗り重ねてゆくことで明るい色彩を実現したように、ドビュッシーのこまやかな音のアラベスクは、語法としても印象派の絵画に近い。

《月の光》はP.M.ヴェルレーヌ(1844-96)の詩集『艶なる宴』(1869)の一篇「月の光」に着想された。「なによりもまず音楽を」と、音楽への愛を宣言したヴェルレーヌの詩に初めて作曲したのはたぶんドビュッシーで、『艶なる宴』は、ドビュッシーが作曲家としての道を歩みはじめた頃から晩年まで、いつも彼の創作の源泉だった。「君の心は選ばれし風景。幻想の仮装で哀しく踊る。短調のしらべに歌うは恋と世の栄え。哀しくもまた美しき月あかり。光は鳥に夢みさせ、官能にすり泣かせる。しなやかな大噴水を」(大意)。ヴェルレーヌの詩「月の光」はこんな情景を描く。

ドビュッシーの音楽の源泉を掘りさげると、ヴェルレーヌのおとこに、フランス・ロココの画家A.ヴァトー(1684-1721)のすがたをみることができる。ヴェルレーヌの詩想は、ヴァトーの「雅宴画」とよばれる作品のかずかずから得られた。ドビュッシーにおける音楽と美術の関係で重要なのは、じつは印象派の絵画より、ヴァトーの作品群かもしれない。ドビュッシーのピアノ曲《喜びの島》(1904)は、ルーヴル美術館にあるヴァトーの「シテール島の巡礼」(1717)に触発されたものだ。

ヴァトーが描いたのは、優雅で享乐的な世界。庭園に貴族の男たち女たちが集い、愛をささやきあい、ギターが奏でられ、そこにイタリア喜劇(コメディ・デラルテ)のベーンズが織り混ぜられる。ヴェルレーヌやドビュッシーは、その甘美なロココの情景に彼らの時代のデカダンスなムードを重ねあわせながら、あるノスタルジーを感じていたのだろう。そのノスタルジーの感覚は、ドビュッシーの音楽に聴くことのできる重要な通奏低音のひとつだ。音楽はいつも、月の光にきらめく噴水のように、たち現れては消えてゆく。ノスタルジーは、そんな、消えゆくものへの慈しみのまなざしである。ドビュッシーがヴァトーの絵画を愛したのは、音楽を愛する、ということの、ひとつの本質的な表われにほかならない。

印象派の音楽と その発展

11/11(木) 浜田理恵(ソプラノ)
野平一郎(ピアノ)

19:00 開演(18:30 開場) 静岡音楽館AOI ホール(8F)
全指定 ¥4,000 (静岡音楽館倶楽部会員 ¥3,600 22歳以下 ¥1,000)

モネ、ルノワール、セザンヌ、ゴッホに想いを寄せながら、色彩豊かにうつろう光をキャンバスに写し出す印象派の世界を、うたとピアノによる演奏で楽しみたい。芸術の秋にはまさにふさわしいプログラム。心ゆくまで印象派の世界をお楽しみください。





コンサートレポート

CONCERT REPORT

オペラ・コンサート
「カルメン」8月10日(火)
レポート

静岡音楽館AOI市民会議委員 戸崎文葉

今年の夏は異常なほど暑く、夜でも蒸し暑い日が続いたが、そんな真夏の一夜、静岡音楽館AOIでは、オペラ・コンサート《カルメン》が上演された。ハイライトのみ、セミ・ステージ形式でのオペラ・コンサート。一体、どんな「カルメン」が聴けるのだろうかと胸が高鳴る思いで、ホールへ向かった。会場をほぼ埋め尽くした観客が開演を待ち望むその雰囲気は、外気に負けないほどの熱気を帯びていた。

場内が暗くなり、いよいよ開演。ステージ上は、テーブルと椅子がいくつか置かれていて、大がかりな大道具などもちろん無い。端にピアノが置かれ、オペラ伴奏ピアニストとして大活躍されている河原忠之氏が静かに登場。暗いステージで、譜面灯をつけて、おもむろに演奏しはじめる。正面に当てられた青い照明だけなのだが、不思議と別世界へと誘われていく。「オーケストラで演奏されるべき前奏曲が、ピアノでは物足りないだろうな……」などというお粗末な予想は見事に裏切られ、聞き覚えのある旋律が、なぜかオーケストラで聴くよりも鮮明に耳に飛び込んできて新鮮だった。そして、いよいよカルメン・林美智子氏が客席後ろから登場！客席の間を〈ハバネラ〉を歌いながら歩き、聴衆の男性を挑発し、今度はステージ上にいるホセを誘惑する。なんと色っぽいこと。1メートル以内の至近距離で聴くその歌声は、その振動を肌に感じるほどであった。

ホセを誘惑するが、その後闘牛士エスカミーリョに心を移し、ホセを捨て、最後には嫉妬に狂ったホセに胸をナイフで突き立てられるまで、カルメンは歌い続ける。ハイライトのための、次から次へとカルメンは登場する。まさに、カルメン林美智子の魅力が存分に溢れるステージだった。もちろん、ホセ(経種廉彦)、ミカエラ(安藤赴美子)、エスカミーリョ(黒田博)、フラスキータ(菊池美奈)、メルセデス(田村由貴絵)、レメンダード(吉田伸昭)、ダンカイロ(池田直樹)らが、それぞれの役を表現力豊かに演じきっているからこそ、カルメンにスポットが当たっていたと感じる。陰となり、光りとなる見事なピアノに乗って、大音響での歌声を堪能した。

そして、もうひとつ大きな魅力は、俳優・池田直樹のナレーションであった。言葉が非常に明瞭で、深みがあり、物語の展開を進める重要な役割を果たしていた。その語り口は、オペラ歌手と言うより、まさに俳優と呼ぶに相応しい。

聴衆は大満足し、なかなか拍手も鳴り止まず、池田氏の「おやすみなさい」との一言で、ようやくお開きとなったのだが、私の後方席の女性陣が、「あ〜歌詞を理解したかった〜。字幕でも、歌詞カードでもあると良かったのに……。」としきりに残念がっておられた。確かに、素晴らしい表現力だっただけに、今、何て言ったの？とずっと理解したい衝動に駆られたのだろう。

「オペラはやっぱりオペラハウスで鑑賞するのが一番!」という声を聞くこともあるが、AOIで鑑賞するオペラは、劇場とはまったく別の楽しみ方があると痛感した一夜であった。簡易な照明や小道具でも、十分にその雰囲気を感じることが出来るし、そこに自分自身の想像力をプラスする楽しみがある。そして、何より歌い手をより身近に感じ、その旋律、音楽そのものをより楽しめるような思いがした。固定観念にとらわれず、AOIだから出来ること、その幅は計り知れないのであろう。

連載②

調

律

師

と

ピ

ア

ノ

今回はコンサートピアノの調律についてお話ししました。今回は私たち調律師が調律と同様に気を配っている鍵盤やアクションの調整についてお話します。

ピアノは鍵盤に連結されたアクション(打弦機構)を介したハンマーが弦を打つことによって音が出る、いわば「機械仕掛け」の楽器です。鍵盤は手前を押し下げると向こう側が持ち上がるシーソー(テコ)になっていますが、その奥にさらに細かいいくつものテコが組み合わされて構成された機構が、鍵盤の数だけずらりと並列配置されています。

このアクションはコンサートグランドピアノといっても、特別な機能のものが使われているわけではありません。しかし前回にもコンサートピアノの弱点をお話ししましたが、大きなボディを広いホールで鳴らしきるには、指の力がロスなくハンマーに伝わるよう鍵盤とアクションが精密に調整されている必要があります。また演奏会では繊細さと強靭さの両面で極限の性能が求められます。これは例えば同じ自動車でも年に一回の整備でほとんど問題が起きない乗用車と、極限の性能追求と酷使のために技術者が付ききりで整備にあたるレーシングカーの違いのようなものです。

ピアノの鍵盤と打弦機構、ペダルの機構をすみずみまで滑らかに正しい寸法に従って動くように調整するには、熟練した技術者でも十数時間を要します。それらのすべてを行うには演奏会の直前にはとても間に合わないの

多くのコンサートホールでは年に1〜2回、2日間かけてこれらの調整と点検を行っています。このような下準備もコンサートテクニシャンの大切な仕事です。与えられた時間の中で手際よく精密に調整を仕上げる事が出来る技術者になるためには、優れた製造工場や修理工場などで、これらの調整の基礎工程から仕上げまでを繰り返し経験しながら訓練する必要があります。

そしてその後、実際の演奏会の仕事を引き受けながら、ホールに広がるピアノの音を聴いて感じ取った問題点やピアニストから出されるさまざまな要望や意見を調整の仕上げと結び付けて解決する経験を積んでゆきます。ほんの少しの調整の違いが演奏効果に大きく影響することを学びながら、ピアニストの手指の延長のような、つまり機械を介していることを感じさせない自由自在な演奏表現のできる鍵盤アクションの調整について、心を砕いています。

松尾楽器商会

調律師 倉田尚彦



チェロとの出会いは・・・?

小学校1年生の時に、ピアノ、ヴァイオリン、チェロと、それから歌、それぞれがソロで演奏する演奏会が浜松で開かれ、それを聴きに行ったのが、チェロとの出会いです。母も一緒に聴いていたのですが、終了後に「どの楽器がよかった?」と訊いたら、一言、「チェロ」と答えたらしく、当時は、ヴァイオリンをやっていたので、母としては仰天の答えだったようです(笑)

AOIの印象は・・・?

とても響きのいいホールで、特に、弦楽器の演奏には最適ではないかと思います。「静岡の名手たち」オーディション以外にも、演奏させていただく機会があったのですが、毎回、気持ちよく演奏させていただいています。

ご出演される「クリスマス★コンサート」の聴きどころを教えてください。

芸術監督の野平一郎さんを始め、第一線で活躍されている音楽家と、「子どものための音楽ひろば」受講生、そして、「静岡の名手たち」オーディションに合格した若手が共演し、様々なステージをお届けする、まさに特別な一日になると思います。



これからの音楽活動の展望や目標をお聞かせください。

チェリストとしては、オーケストラや室内楽、10月には東京でのリサイタルも控えていますので、ソロでの演奏はもちろん、今年度からジュニアオーケストラ浜松特別指導員になりましたし、個人レッスンなど、演奏活動と併せて、後進指導にも力を注いでいきたいと思います。それから、今年2月に、あおぞら吹奏楽団(前NSM関東支部)指揮者に就任し、11月には、若手を中心に新設されるオーケストラ、浜松シティフィルハーモニー正指揮者への就任も決まり、指揮者としての活動の場も増えてきましたので、幅広く音楽活動を展開していきたいと考えています。



高橋アキからスタンリー・ホッホランド

スタンリー・ホッホランド様

貴方と初めてお会いしたのは1980年代初めの夏、オランダの海辺のホテルだったと記憶しています。隣町での現代音楽祭に出演するためでした。その時は普通のピアノで新しい音楽をたくさん弾いていましたから、貴方が伝統をきちんと踏まえた、それでいながらフレッシュで温かみのある典雅な演奏をするフォルテピアノ奏者とは全然知りませんでした。また、長年にわたって音楽院教授としても情熱を注ぎ、日本でも故・小島芳子さんを始めとしてたくさんの優秀なフォルテピアノ奏者を育てて来られた貴方は、謹厳な見かけによらず(失礼!)とてもシャイで、飾らず、それでいてユーモアのセンスも抜群です。他のオランダの演奏家たちといっしょにフィレンツェに演奏しに行った時のことを覚えていますか。コンサート当日、あまりの上天気に誘われて4人で朝から車でシエナに遊びに行き、その帰り、暗くなってきて道に迷い、大慌てで開演寸前の会場に滑り込んだことなど、楽しい思い出がいっぱいです。また、私が福井県武生市の音楽祭に、貴方に2回来ていただいた時も、ドビュッシーなど様々な曲をいっしょに演奏しましたね。10月「5台のピアノの競演」で演奏するホセ・マセダの曲も演奏していただきました。2週間の滞在中、歴史の古い武生のひっそりと寝静まった街を、凍てつくような寒さの中、毎晩のようにホセと3人で語らいながらゆっくりと散歩したのも懐かしい思い出です。また、2年前に新宿のゴールデン街にお連れしたら、すっかり気に入ってしまい、今年5月来日の折にリクエストでまた一緒に、のんびりできて楽しかったですね。最近は貴方から突然、「ホッホランド作曲」の立派な作品が送られてきてびっくりしました。作曲に加えて、即興も始められたとか。音楽のこと、演奏のことに限らず何でも腹藏なく語り合える親しい友として、いつまでも若々しい貴方の活躍が本当に嬉しいです。AOIでの演奏を心から待ちわびています。

高橋アキ

AOIのアーティスト

生駒宗明さん(チェロ)

AOIでは、静岡の若い音楽家の開拓・支援を目的に、「静岡の名手たち」オーディションを実施しています。今回は、その合格者の中から、12月の「クリスマス★コンサート」へ出演が決定している、チェロの生駒宗明さんにお話を伺いました。

「静岡の名手たち」オーディションを受けたきっかけは何ですか?

大学の研究科を修了した直後の開催だったので、これまで学んできたことの実践と力試しも兼ねての挑戦でした。今でこそ笑い話に出来ませんが、オーディション当日、集合からリハーサル、本番までの時間が短かったので、演奏する曲の楽譜を持たずに会場入りしたんです。待合室では音出しが出来なかったので、頭の中で復唱をしていたのですが、ある一部分で先に進めなくなっちゃったんです。ど忘れしちゃったんですよ(笑)頭の中は大パニックでした。リハーサルは、自分で時間を計って交代していく形だったので、普段なら、前の人が切りのいいところまで弾いたときに声をかけるのですが、その時は、なるべく早く楽器を出して弾いて、思い出さなければって焦っていたので、一秒も遅れずに声をかけましたね(笑)それで、バタバタと楽器を出して、チューニングもそこそこに弾き始めたとなん、何事もなかったかのように思い出したんですよ。なんか、ホッとしたのと同時に、一気に力が抜けてしまいました。でも、その不安は拭いきれないままだったので不合格だと確信していました。だから、合格の知らせが来たときには、本当に驚きましたし、嬉しかったです。

まさに高橋アキの国境を越えた活動領域を示す一枚



左:スタンリー・ホッホランド、中央:ホセ・マセダ
右:高橋アキ、1995年、福井・武生にて

静岡音楽館AOIのコンサートシリーズも今年ではや15周年。これまでの出演者がAOIに残してくれたサインとともに、その足跡をたどります。



1 AOIのオルガンを鳴り響かせた、あのレオンハルトが2年半後、チェンバロの演奏で再び帰ってきた!

グスタフ・レオンハルト オルガン・リサイタル
2001年12月11日

ブラヴォー・アンコール!
グスタフ・レオンハルト チェンバロ・リサイタル
2004年6月3日

G. Leonhardt
3 VII '04

2 バッハのスペシャリスト、小林道夫が
バッハの愉悦を心ゆくまで
お届けしました。

J.S. バッハ
ブランデンブルク協奏曲
2003年10月2日

Cemb.

小林道夫



3 チェンバロとオルガンの演奏を
一度に味わう豪華なコンサート。



トン・コープマン
チェンバロ&オルガン・リサイタル 2005年11月29日

C. Males
a great
beautiful
hall
Shanley
19 Nov

AOI
コミュニケーション
ひろば
お客様の声

たくさんのご感想・ご意見を
ありがとうございます。
これからもお客様の声を
心よりお待ちしております。

2010コンサートシリーズにお越しいただいた、
お客様からの声をご紹介します。

4/27(火) オーケストラを聴こうシューマン:交響曲全集 I

●初めてオーケストラを生で聞いた。とても迫力があつた。激しいところ、なめらかなところと様々ありました。もっといろいろな作曲家の作品を聞きたいです。

5/7(金) ランチタイム・コンサート 工藤重典&福田進一

●体の一部のように楽器をあやつる姿に感動! 音色もすばしかったです。昼間というのも新鮮な企画でよかったと思います。至福のひとつでした。ありがとうございます。

●夜は普段来れないので昼にこのような企画がありとても良かったです。低価格なものすごいと思いました。(和歌山市・井戸端様)

●フルートを趣味として楽しんでいます。

工藤さんのフルートは1月に、東京で音楽コンクールの時に聞きました。短時間でチャットものたりなかったです。今日は1時間じっくりと聞く事が出来、とても楽しかったです。また聞きたいです。ぜひお願いします。(静岡市・男性)

●公演時間が1時間ということや、手ごろな(安い)価格でチケットが買えることなど、気軽に足を運べていいと思いました。今回選んだ席、次回のコンサートではまた違う席で聴いてみたいです。そんな風にして聴きくらべができることも、おもしろいと思います。(静岡市・男性)



6/9(水)

小菅優(ピアノ) 榎本大進(ヴァイオリン) 川本嘉子(ヴィオラ) 趙静(チェロ)

●聴いててほっとした。身にじんわりきました。また聴きたいです。

●4人それぞれ、すばらしいテクニックと息の合った演奏。久しぶりに感動しました。(静岡市・女性)

●とても良かったです。迫力があつた。いつも音楽好きの子供と来ますが、学生でも1,000円で指定席がとれるのが有難いです。(掛川市・女性)

●これだけのメンバーがそろうのはなかなかないことです。よい企画をしていただきました。ありがとうございます。(富士市・男性)

●すごく良かったです。とくにあつち弦3人!! また呼んでほしい。ピアノ五重奏とか弦楽六重奏とか聴きたいです。(静岡市・男性)

●ヴィオラの音色がとても良かった! やつぱり生のコンサートはとても良いなとつくづく思います。音楽のシャワーを全身に浴びてリフレッシュしました。

●室内楽ですごく! オーケストラより迫力があつた。ブラヴォー!!

7/3(土)

ベートーヴェンピアノ・ソナタ選集Ⅲ ファジル・サイ ピアノ・リサイタル

●とても力づよいおんがくでした。おんがくといふに体もゆれていて、きれいでした。おんしよくかとてもきれいでした。

●今夜は、小学校4年の息子と聴かせていただきました。世界で活躍するピアニストの演奏を、自分の住んでいる街で聴くことができ、うれしく思います。ファジル・サイはテレビで観て息子も覚えていたので、今回は息子の希望で足を運びましたが、本当に来て良かったです。素晴らしい演奏でした。息子もファジル・サイの息づかいを肌で感じていたと思います。AOIに感謝! (静岡市・女性)

静岡音楽館倶楽部会員の皆さまへ

お名前、ご連絡先、銀行口座等、ご登録内容に変更が生じた場合は、速やかに下記までご連絡ください。

なお、平成23年度以降の退会をご希望のかたは、平成23年2月末日までに、静岡音楽館倶楽部事務局へ退会届をご提出ください。ご提出なき場合は自動更新となりますので予めご了承ください。

静岡音楽館倶楽部 法人会員 (2010年4月末現在) 50名

●かわした歯科クリニック	●(株)静岡博報堂
●(株)サンタモンコーポレーション	●鍼灸・指圧六番町ぬぐすい
●静岡ガス(株)音楽部	●(株)タミヤ
●静岡ターミナルホテル(株)	●三菱電機(株)静岡製作所

特別協賛:

静岡信用金庫 TOKAI TAMIYA

助成: 文化庁 平成22年度文化庁芸術拠点形成事業

次のことを予めご了承の上、チケットをお求めください。
皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

※ 価格は税込です。

※ 都合により内容を変更する場合があります。

※ お客様のご都合によるチケット代の返金、座席の変更は致しかねます。

※ 場内での飲食、写真撮影、録音、録画は固くお断りいたします。

※ 携帯電話、アラーム付時計等の使用はご遠慮ください。

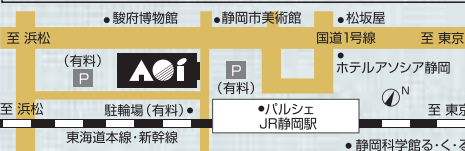
※ 静岡音楽館AOIは、施設の構造上、会場準備が整わない状態(開場時間前)で、お客様を8階ホールへご案内することができないため、通常エレベーターは7階止になっております。開場時間になるまで1階エレベーター前か、7階ロビーでお待ちください(ただし、1階エレベーター前でお待ちいただいたお客様を優先してご案内いたします)。

※ 静岡音楽館AOIでは、小さなお子様にも良い音楽を聴いていただきたいと考え、未就学児童の入場を制限していません(22歳以下のチケットが必要で)。小さなお子様連れのお客様は、他のお客様のご迷惑にならないよう充分ご配慮ください。

要事前予約・託児料: 一人¥1,000
すわん TEL.054-247-7477(9:00~21:00)
留守番電話の場合は、お名前・お電話番号を録音してください。

※ そのほか、他のお客様の鑑賞の妨げとなる行為は固くお断りいたします。

JR静岡駅北口を出てすぐ左



※ 当館専用の駐輪場・駐車場はありません。

CONCERT HALL SHIZUOKA
静岡音楽館 AOI

月曜日休館(ただし祝日開館、翌日休館) 9:00~21:30開館

〒420-8691 静岡市葵区黒金町1番地の9

お問合せ

054-251-2200

AOI

検索